

災害激甚化・縮退社会時代の総合戦略としての 都市・地域デザインの探究と実践に取り組みます。

KOZAWA, Hironao

小澤 広直



キーワード

景観・デザイン / 土木史 / 都市・地域計画 / 交通計画 / まちづくり / 災害復興

分野等

都市・地域デザイン

email

kozawa[at]nagaoka-ct.ac.jp

※ [at] を @ に変えてください

研究分野

具体のフィールドでの現地調査、文献調査、地理的分析、住民の方々との対話、デザイン提案などを通じて、災害激甚化・縮退社会時代に求められる総合戦略としての都市・地域デザインの探究と実践に取り組みます。主な研究分野とテーマは以下の通りです。

景観・デザイン

- ・水系基盤を生かしたまちづくり
- ・湿地都市の計画・デザインと市民活動

景観・デザイン分野では、主に新潟県福島潟地域において、集落の空間構造や水系基盤、市民活動を生かしたまちづくりの調査・研究・実践に取り組んでいます。2017年度の新潟市潟環境研究所からの受託研究を契機として、新潟市と新発田市にまたがる福島潟地域にて研究活動に取り組んできました。テーマとしては、「潟での市民活動の変遷」「福島潟を中心とした複雑な水のネットワークの把握と可視化」「福島潟を地域内外の人々へ広く知ってもらうための将来像の提案とそのための情報デザイン」などが挙げられます。

これらの研究活動では、新潟大学名誉教授の大熊孝先生（河川工学・河川土木史）や早稲田大学教授の佐々木葉先生（景観論・土木デザイン）をはじめとして、地域住民の方々、新潟市、水の駅ビュー福島潟や土地改良区の職員の方々などにご協力いただきながら実施しています。2024年度には(一財)水・地域イノベーション財団の研究助成に、2025年度からは科学研究費基盤研究Bに採択されています。

【参考】新潟市潟環境研究所シンポジウム「湿地と共生する都市の未来」, 早稲田大学景観・デザイン研究室 吉澤広大・小澤広直・渡邊拓巳: 福島潟の風景のデザイナー人と自然のつながりの見方を拡大するー, <https://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/kankyo/kataken/katakensinpo.files/fukushimagata.pdf>

土木史

- ・戦後都市デザイン史
- ・近現代土木デザイン史

土木史分野では、近現代の都市・土木デザイン史を中心的なテーマとして継続的に取り組んでいます。

関西道路研究会との共同研究（2016～2018）では、近代大阪の都市基盤形成を担った大阪市営電気軌道事業（市営路面電車の敷設事業）の際に建設された橋梁のデザインについて、当時の図面や統計資料から橋梁デザインの思想と特徴を明らかにしました。

現在は、首都高速道路や阪神高速道路をはじめとする都市高速道路の計画・デザ

職名

助教

1年学科担任

学位

修士(工学)



図1 新潟県福島潟（新潟市北区・新発田市）

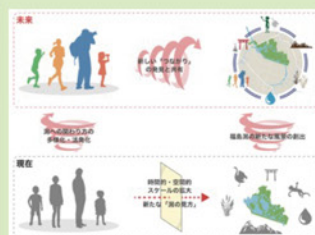


図2 福島潟の将来像コンセプト



図3 福島潟の将来像を提案したブックレット



図4 大阪市営電気軌道事業により建設された橋梁の図面

イン論の構築に向けた歴史的研究に取り組んでおり、2023年度より科学研究費の研究課題に採択されています。

またこの研究と関連して、2019年度から、文化庁と土木学会の共同体制による、戦後土木施設の歴史・文化的価値に関する調査委員会に参画しています。これらの価値評価に向けた議論と評価方法の構築、関連する国土・都市・交通計画や政策の把握や、対象施設の現況調査を行っています。

【参考】文化庁 近現代建造物緊急重点調査事業, https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/joseishien/kingendai_kenzobutsu_chosa/index.html

都市・地域・交通計画

- ・災害復興デザイン
- ・地方交通計画

都市・地域計画分野については、長岡高専着任に伴い、新たな研究テーマとして取り組みます。長岡は2024年10月に、2004年の新潟県中越地震から丸20年の大きな節目の年を迎えました。2024年度からは(公社)中越防災安全推進機構主催の中越大震災20年プロジェクトに参画しています。

【参考】中越大震災20年プロジェクト, <https://www.chuetsu20.com>



図5 戦後土木施設として歴史・文化的価値の高い橋梁（レインボーブリッジ）



図6 文化庁近現代建造物緊急重点調査事業（土木）最終報告書（河川・砂防編、鉄道編）

興味のあること・技術 PR

新潟をフィールドとする研究活動では、福島潟などに代表される「潟（かた）」と呼ばれる湿地を地域資源としてその価値や魅力を発見し、それらを生かした持続可能なまちづくりへと展開していくための調査・研究・実践に取り組んでいます。

また、文化庁と土木学会の共同体制による調査委員会にも参画し、先人たちの努力によって現代の都市・地域の骨格ともなっている、歴史的な価値の高い土木構造物の保全・活用に向けた議論、調査、評価にも取り組んでいます。

特別設備

ArcGIS Pro

企業との連携実績

関西道路研究会 大阪市の市電事業で建設された橋梁図面の評価・活用研究会（2016～2018）

新潟市潟環境研究所 新潟市ラムサール条約都市・新潟構想研究委託業務（2017）

文化庁 近現代建造物緊急重点調査事業（土木）（2019～現在）

(公社)中越防災安全推進機構 復興プロセス研究会（2024～現在）

NPO新潟湿地都市研究所 まちづくり部会（2024～現在）

つながりたい分野（産業界、自治体等）

具体の都市・地域をフィールドとして、住民や行政の皆様、建設コンサルタントなどの実務者の皆様と共に、深く、永くお付き合いしていきたいと考えています。

学生の主な就職先

就職先：建装工業株式会社

進学先：長岡高専専攻科、宇都宮大学、豊橋技術科学大学